



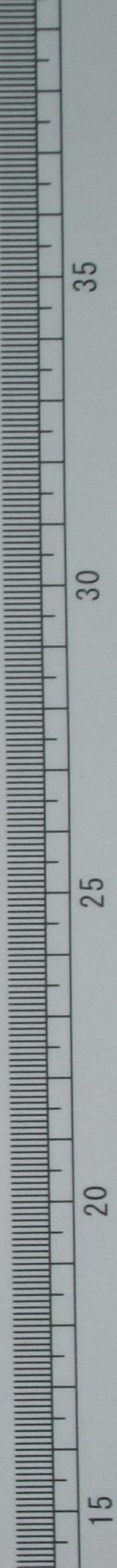
前田夏繁
高島藍泉

著 東台戰記

一名 松廻落葉

上

柳田文庫
文庫11
A1646
1



文庫 11
A1646
1

前田夏繁
高島藍泉 著

東台戰記

一名松
廼落葉

平里川
不訃翻

官許
協力社藏版

協力社藏版

満池

木戸公書

木戸公書

櫻桃

杏

木戶公書

香

明治七年
五月摘

之心詩句

松菊生



春日過東嶽

與甫

僧看拄杖半碧蕪
春陰垂地樹以疎
隔林啼鳥忽魂飛
滿徑落花哀血濡

其後法華法殿在
 只秀清水一臺孤
 程園漸受人有世
 名粉多南葵酒樽
 槐心志人存慶

柳田泉文庫

緒言

一 余輩此書ヲ記スル四ノ慨歎スル處アルニ由
 来ス東名ハ當府無比ノ勝地名刹タリ一朝兵
 燹ニ罹ル是慨歎スヘキノ一ナリ幕府廟墓ノ
 地法王安居ノ山脱兵ノ鮮血ニ汚穢ス是慨歎
 スヘキノ二ナリ脱兵ノ結黨スルモトヨリ君
 家ヲ維持スルノ良策ニアラス是慨歎スヘキノ
 ノ三ナリ脱兵ノ官軍ニ抗スル暴舉判然齒牙
 ニカクルニ及バズト雖死以事ニ従フハ實ニ

東名成記

緒言一

誣ベカラサルノ一端ニシテ是慨歎スヘキノ
四ナリ此書ヲ記スル所以ハソレコ、ニ有リ
トス

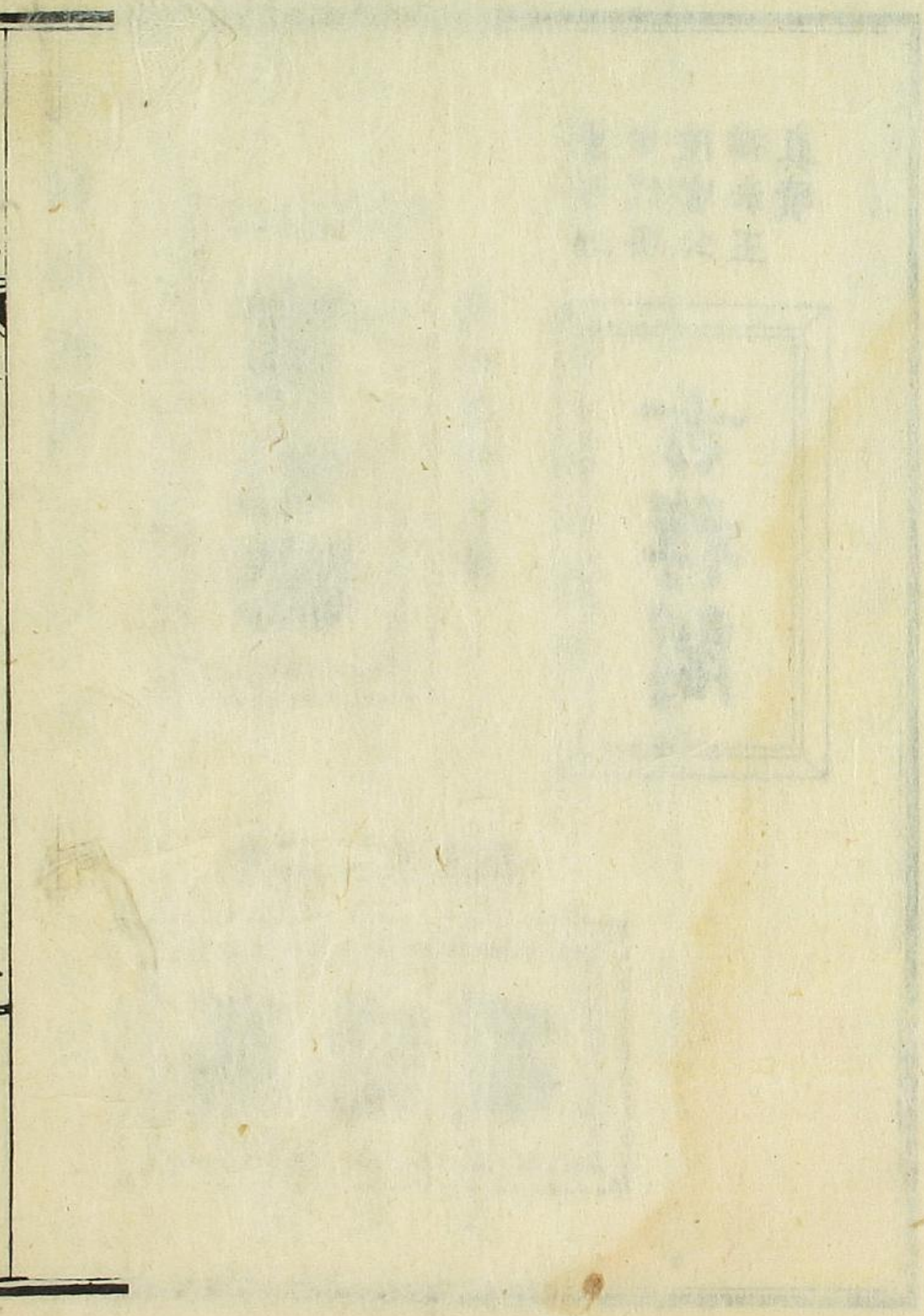
一 此書ヲ記スルニ當テ確説ヲ索ルニ一時其隊
中ニ有ル者モ朝ニ過激ヲ鎮シ夕ニ歎訴ノ議
ニアヅカル實ニ事情ヲ記載スルニ暇ナシト
果シテ然ルベシ只隊長天野八郎ガ手記スル
處ノ斃休録一卷ト金杉村ナル根岸里ノ某ガ
親ク見聞スル所ヲ録スルモノ一卷アルノミ

餘ハ各新聞紙類ヲ纂考シ且街談巷説ノ正キ
ヲ摘テ記スルトイヘモトヨリ錯誤ナキ
能ハス請筆ニ咎ルナカレ

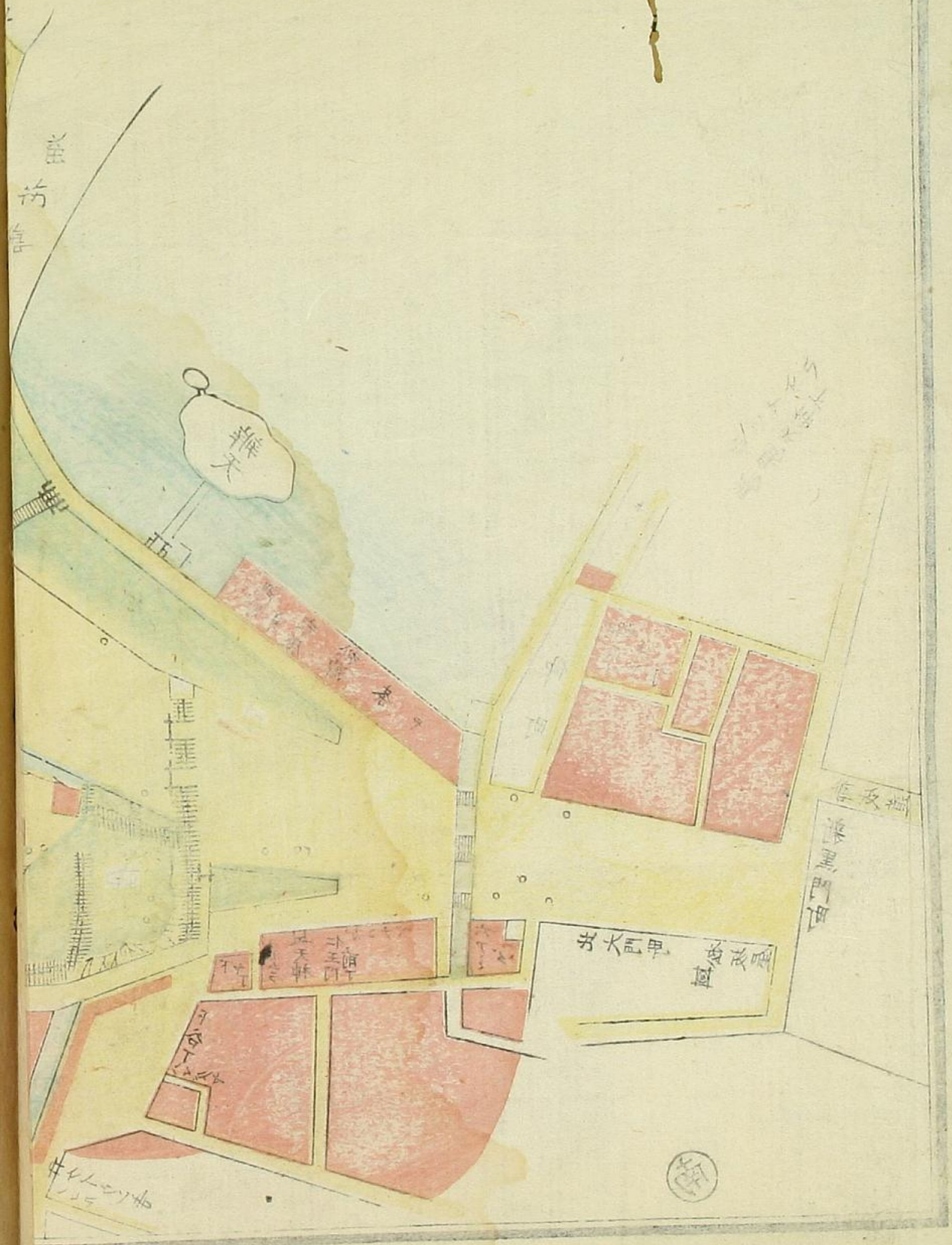
一 隊中ノ氏姓ハ已上ノ二書并ニ傳聞スル所ニ
ヨリテ記ス就中事ニ臨ンテ往々名姓ヲ改設
ルモノアリ今ソノ正キヲ知ルコト能ハス只
其隊中自稱スル處ヲ以テ記載ス

明治七年五月

東...
三



北
東
西
南



扁額類縮寫

寛永

後水尾帝宸筆

筆宸皇法元靈

徳延

東台三世
明公院
辨法王
真蹟

吉祥閣

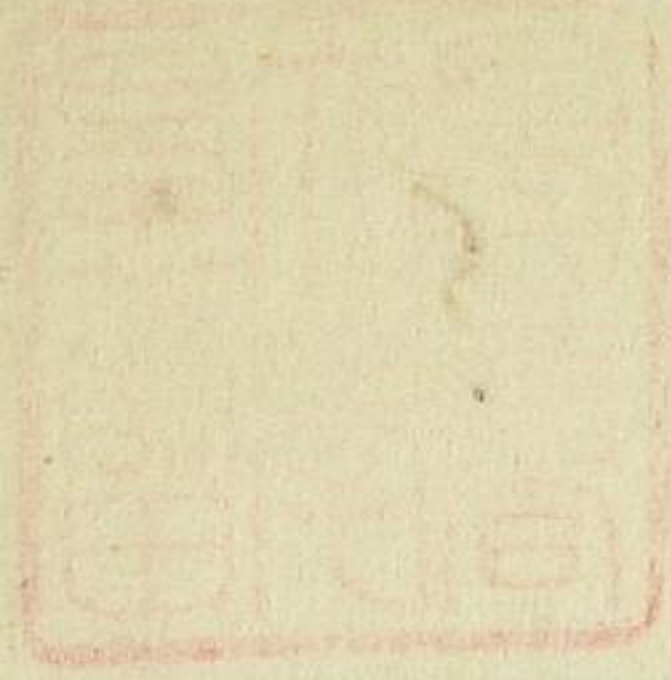


前田夏繁 高畠藍泉 著 松延落葉卷上 一名東台戰記

慶應戊辰ノ夏五月十五日東叡山ニ屯集スル處
ノ彰義隊以下ノ脱兵追伐ノ擧アリ今其景況ヲ
詳ニセントス同年春正月幕府東歸ノ後上下騷
擾議論雲ノ如シ此際深ク君家ノ安危存亡ヲ苦
慮焦心スルノ徒同志ヲ募テ淺州本願寺ニ集會
シ君家朝敵タルノ臭名ヲ洗除シ家蹟相襲ノ公
許ヲ得ント專歎訴哀告ノ議ヲ興シ日夜コレニ

東台戰記

協カシテ各寢食ヲ安ンゼス然ルニ此舉アルヲ
 知リ檄ヲ傳スシテ來會スル者朝二十名ニシテ
 晩ニ百人ヲ筭スルニ至ル遂ニ數日ノ後其人望
 アル者ヲ推シテ首長トシ其隊ニ名ヅクルニ彰
 義ノ字ヲ以テス彰義トハ蓋君家危急ニ當テ臣
 子ノ義烈ヲ彰ハサントスルノ意ナランカ此輩
 ノ議紛紜決セザルニ時官兵ノ東下ニ際シ屯集
 所本願寺ヲ以テ東久世殿ノ宿營ト定メラル是
 ニ因テ衆コ、ニ會スル一能ハス去テ東台ニ入



リ山内ノ諸坊ヲ以テ屯集ノ所ト定ム抑東叡山
 ノ地ハ往昔津ノ藤堂氏ノ邸タリ津侯其采邑伊
 賀ノ上野ニ食ム其地勢此彼相似タルヲ以テ上
 野ト稱スト後幕府ノ廟墓ヲコ、ニ築キ寛永寺
 ヲ創立スルニ當テ津侯ハ向柳原ノ地ニ移轉セ
 リト云下寺通ト唱ルハソレヨリ數年ノ後白鶴
 ノ徐歩スルアリ歴ル處血ヲ墜スコト線ノ如シ
 山僧ソノ奇異ヲノベテ以テ幕府ニ請ヒ始テ上
 野ニ諫ス其事載テ古記ニアリ夫寛永寺圓頓院

東名單言 卷一
八人皇百九代後水尾帝ノ馭宇寛永四年比叡山
延曆寺ニ擬シ江城鎮護ノタメ慈眼大師ヲシテ
此靈場ヲ草創セシメラル年号ヲ以テ寺号トス
師ノ草創スル所ノ比叡山ヲ以テ延曆寺ト稱スルニヨレリ金甕玉檐成整ノ
時帝寛永寺ノ勅額ヲ下シ賜ヒ根本中堂瑠璃殿
ニハ靈元帝勅額ヲ下シ賜フシカ有リシヨリ已
來輪王寺法親王連綿此地ヲ管領シ賜フニヨリ
莊嚴至ラザル處ナク府下無比ノ梵刹タリ江城
ヲ去ル壹里許廣坊アリ廣小路ト云ヒ寛永寺ノ

南門ヲ黒門ト云自餘七門アリ新黒門ト云車阪
門ト云屏風阪門ト云新門ト云フ此四門ハ山ノ
東方下寺通ヨリ坂本ニ達スルノ門ナリ穴ノ稻
荷門ト云清水門ト云谷中門ト云此三門ハ山ノ
西方ヨリ北根津谷中ニ達スルノ門ナリ黒門ヨ
リ南一町許三橋ヲ架ス是不忍池ノ下流ナリ此三
橋御橋ト云今三橋ニ改ム往昔三橋ノ北數歩ニ
時世ノ變實ニ歎スヘシ往昔三橋ノ北數歩ニ
ノ仁王門アリ舊時祝融ノ災ニ罹テ今只礎ヲ存
土俗廣小路ノ東面瀨川屋敷トヨグノ地ヲ仁王
門前ト云瀨川屋敷ハ今改テ五條町ト云瀨川ハ

五條天神ノスルノミ黒門ハ後ニ營ム處ニシテ
 甚粗ナリトイヘドモ吉祥閣魏マトシテ雲外ニ
 高聳ス閣上文珠菩薩ヲ安シ諸佛其傍ニアリ扁
 額ハ代明院宮公辨法王真翰ニシテ衆ソノ名蹟
 ヲ稱ス薩陞ノ堂土俗清水堂ト云東面ニ孤立シ
 テ佛法東漸ノ真趣ヲ表シ廬沙那佛堂南都ノ蹟ヲ擬シ
 大小ニ軀ヲ安セリ西面ニ依然トシテ西方浄土ノ莊嚴ヲ
 象レリ山王祠稻荷社山王ハ祭神大山咋神ナリ
比叡山祀ルトコロニヨル
宮地南門ノ東高所ニアリ稻荷ハ宇迦覓ヲ
祀ル南門ノ西不忍池ニ通スルノ道ニアリ東西

相對シニ所ノ鐘樓南北相接ス吉祥閣ノ北一町
 許左右ニ常行堂法華堂アリ中央ニ朱橋ヲ架シ
 行人ヲシテ橋下ヲ通セシム土俗是ヲニ僧坊三
 十六東ヲ四軒寺ト云ヒ下寺ト云併セテ十八坊
 西ヲ谷中道ト云ヒ錦小路ト云ヒ奥寺ト云併セ
 テ十八坊アリ奥寺ノ地ヲ一ニ穀谷ト云土俗謬
テ袋谷ト云ハ行テ達スル所ナキ
テ也其他一切經輪蔵五輪塔アリナカンヅク根
 本中堂瑠璃殿ハ藥師佛ヲ安シ廻廊南門壯觀云
 フヘカラス背面數歩ノ地ハ則親王ノ法殿トス

土俗御本 満山櫻花ノ春ハ芳野ニ彷彿シ名命ニ
 坊ト云フ 昔芳野ノ花 遠近楓葉ノ秋ハ龍田ヲ壓倒ス層松
 ヲ植ト云フ ハ森ヤトシテ風泰平ノ樂ヲ奏シ老杉ハ鬱々ト
 シテ露土壤ヲ破ラス地位平坦ニシテ東面纒ニ
 高ク北ハ根岸三河島ノ田畝ニ接シ西ハ根津谷
 中ニ属シテ不忍池其間ニアリ元來兵ヲ弄シ武
 ヲ逞フスルノ地理ニアラサルコト知メシ今年
 彰義隊ヨ、ニ移屯セシヨリ陸續隊名ヲ呼テ其
 下ニ属スル者凡十有五隊

遊撃隊 幕講武所ヲ置テ擊劔鎗術ニ長スル者ヲ舉是其隊也

歩兵隊 一聯隊ハ聯隊

砲兵隊 摘興隊 神奈川開港場ニ置所ノ

純忠隊 隊長竹中 臥龍隊 隊長間宮

旭隊 隊長奥山 貫義隊

万字隊 関宿 松石隊 明石

神木隊 高田 浩氣隊 若州

馬勝隊 高寄 水心隊 結城

白虎隊 會藩 清氣隊

其他浮浪ノ徒一時糊口ノ為ニ加レル者モ亦少
シトセスルハ始終諸隊ヲ概シテ韋義隊ト呼ナセ
テ以テ

彰義隊長池田大隅守波澤誠一郎中條金之助小田井庫太三人ハ
モト隊長タリシカ事故アリテ戦争前退去ス

准隊長

天野八郎

菅沼三五郎

春日左衛門

川村敬三

頭取

吉田定太郎

伴門五郎

織田主膳

本田敏三郎

小林清五郎

大塚宥之進

加藤陽三郎

酒井宰輔

近藤武雄

准頭取

兵隊伍長

- 新井鏢太郎
- 松山作左衛門
- 土肥八十三郎
- 松本行吉
- 杉原鼎
- 石川善一郎
- 大谷内龍五郎
- 加藤光造
- 佐久間赤七郎

- 菅沼房次郎
- 鳥飼常三郎
- 淺川文三郎
- 本下七郎
- 山崎雄五郎
- 高橋真吉
- 比留間良八
- 安藤勘造
- 古谷万太郎

會計長

- 村越三藏
- 今井磐
- 西村與八郎
- 田中清三郎
- 百井求之助
- 飯田豊之助
- 秋元虎之助
- 丸毛鞞負
- 加藤太五郎

記録長

- 器械掛
- 天王寺誥谷中ニアリ
- 小川楊太
- 松寄平三郎
- 阿部杖策
- 窪田俊助
- 小川喜代之助
- 小野安太郎
- 齊藤金左衛門
- 金井鎮次郎

高橋龜吉

花侯鉄吉

近田六郎太夫

百瀬雄三郎

高山鍵太郎

神木隊取締

万字隊取締

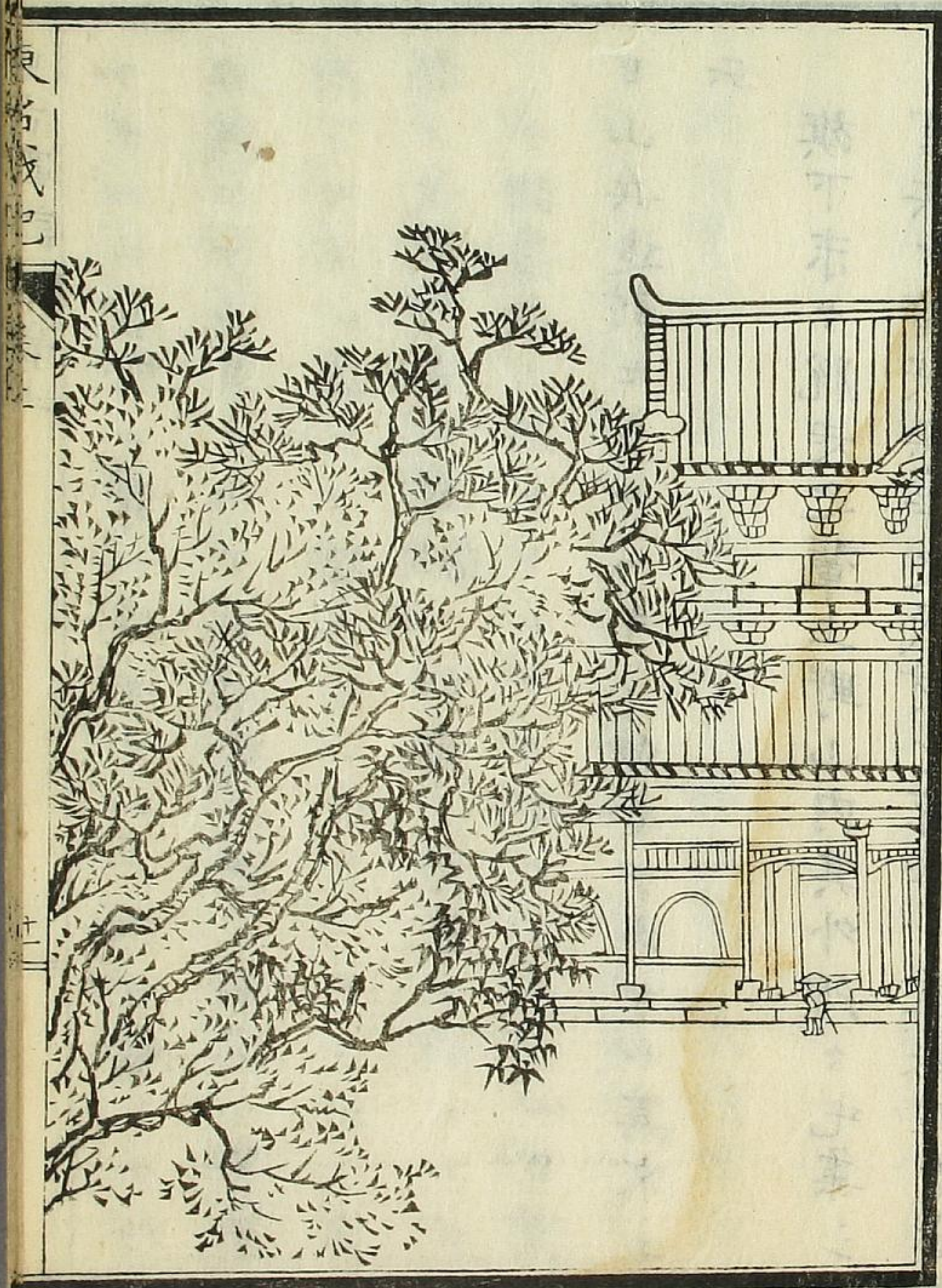
覺王院誥内山

皆旗下脱走ノ徒譜代恩顧ノ士志ヲ傾ケテ朝夕
討論スルモ唯幕府ノ安危存亡ニ管セザル者ナ
シ然リト雖君主謹慎恭順ノ際私意ニ勿黨ヲ結
ヒ隠微ニ威武ヲ逞フスルハ實ニ朝旨ヲ蔑如ス

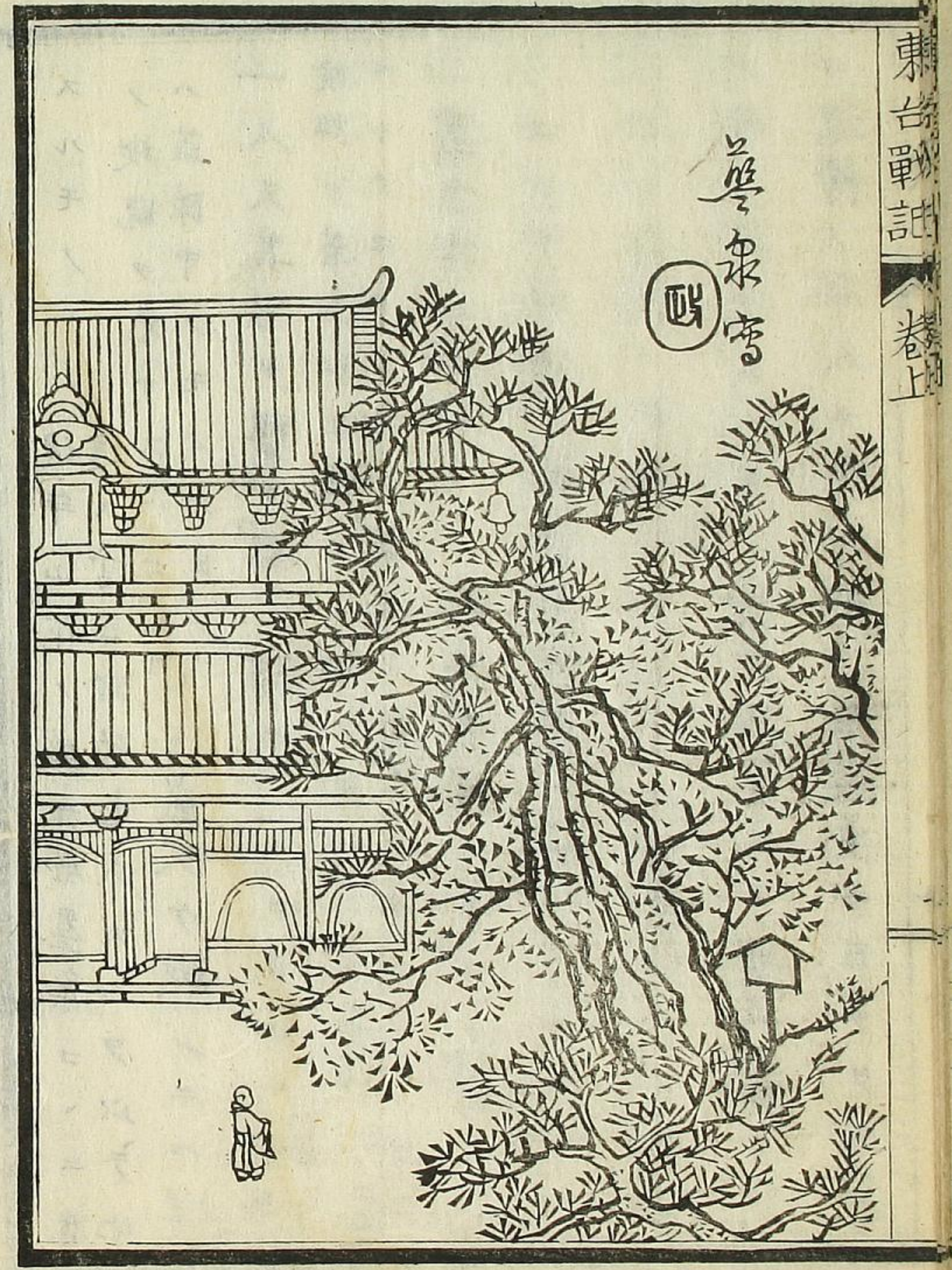
ルカ如シト廟堂ノ議モ亦是ヲ度外ニ置ケ屢大
惣督府ノ命ヲ以退居スベキノ旨ヲ説諭セラレ
トイヘル一タビハ君家ノ興廢存亡ヲ見ザルニ
於テハ其命ニ應ズ一カラザルヲ以テシニタビ
ハ祖宗ノ廟墓ヲ離ル、ニ忍ビザルヲ以テシ三
タビハ歴代ノ書籍寶器ヲ大惣督府ノ命ニ應シ
ヲコ、ニ運輸スル保護スルヲ名トシ百方相拒
フ幕命ニ因テ護スル保護スルヲ名トシ百方相拒
ンテ固守動ス諸隊ノ首長ハ過激ヲ糺彈シ暴動
ヲ防クト雖衆口嗷ノ聲磨銃ノ徒多ク既ニ吉

田要之助秋元源七郎匹田友三郎伊藤熊八関規
 矩寺等谷中三寄町山北天王寺ノ傍ニアリニ於テ官兵巡
 査ノ道ヲ遮リ口論ノ末鬪争ヲ發シ薩州ノ兵士
 有吉庄之丞湯地治石衛門有馬早八郎ヲ殺傷シ
 或ハ奥羽ニ運輸スル所ノ彈藥ヲ掠奪シ或ハ北
 地ニ赴ク脚夫ヲ暗殺スカクノ如キ事屢アリト
 雖朝廷猶寛大ノ宥恕ヲ垂レテ嚴ニ其罪ヲ問ハ
 レス激徒ハ却テ是ヲ遺憾トスルモノアリ時山
 花ノ盛ニ會ス一士人花下ニ逍遙シテ漫ニ朗誦

スルモノアリ連年山花ノ盛衆庶羣集コトニ勝
遊ス當春諸隊屯戍スルヲ以テ他
ハ蓋隊中ノモノナラント嵐吹ケ戦ノニハ櫻
 一人又其句ヲ襲グ都ノ錦タツノヤヨヒニ官兵
各小
 段錦ヲ着テ以目標トス都ノ錦トハソレヲ前續
サシテ云ナリ辰ニ裁断ノ義ヲカネタリ
 一篇佳作ニアラズト雖過激徒ノ意中ヲ察スベ
 シ四月下旬遂ニ朝議其抗命ノ赦スヘカラザル
 ニ決シ追伐ノ色表ニアラハル此際一山ノ周圍
 外柵ヲ設苑スヘキノ論ヲ起スモノ有テ竊ニ事
 ヲ近傍ノ市人ニ托ス市人唯諾去テ日アラズ暮



東台單記



東台單記
四

東台單記
卷上

ラザルニ金幣ヲ携へ促サシルニ杖ヲ輸シテ外
柵頓ニナル是ヲ以テ益暴動反逆ノ論定ル惣督
府下モ亦此巢穴ヲ攘スンバアルベカラズト軍
務ノ長大村益次郎長州藩計謀ヲ帷幕ノ内ニメグ
ラシ諸藩兵ノ向フトコロヲ定メ五月十四日翌
日山兵追討セラルヘキノ命令ヲ出サル其文ニ
云

旗下未々脱走之輩上野山内其外所々屯集シ
官兵を暗殺無辜之民財を掠奪一益暴虐を逞

ト官兵ノ抗衡を實ニ大罪不可赦之國賊也最
早

朝廷寛仁之道ニ絶果断然誅伐被仰出候付而
者勇闘激戦奮て國賊を盡殺一億兆蒼生之塗
炭を救ひ速小平定之功を奏一可奉安 宸襟
音 御沙汰候事

五月

兼而御軍令ニ被仰出候通猥小民家を放火
一家財を掠る等亂妨狼藉ケ間敷義無之様可

相心得旨尚改而被仰出候事

五月十四日

大惣督

参謀

山兵モ此結構アルヲ知テ所々ニ巨礮ヲ分配シ
諸隊ノ向フ處ヲ定メ東名近傍ノ市人老少婦女
退居難ヲ避ヰキヲ布達ス此年ヤ春ヨリ盛夏ニ
至ルマデ霖雨濛々連月日光ヲ見ズ道路泥濘進
退不易河水満溢舟車ノ辨利ヲ失ヘリ調度ヲ負

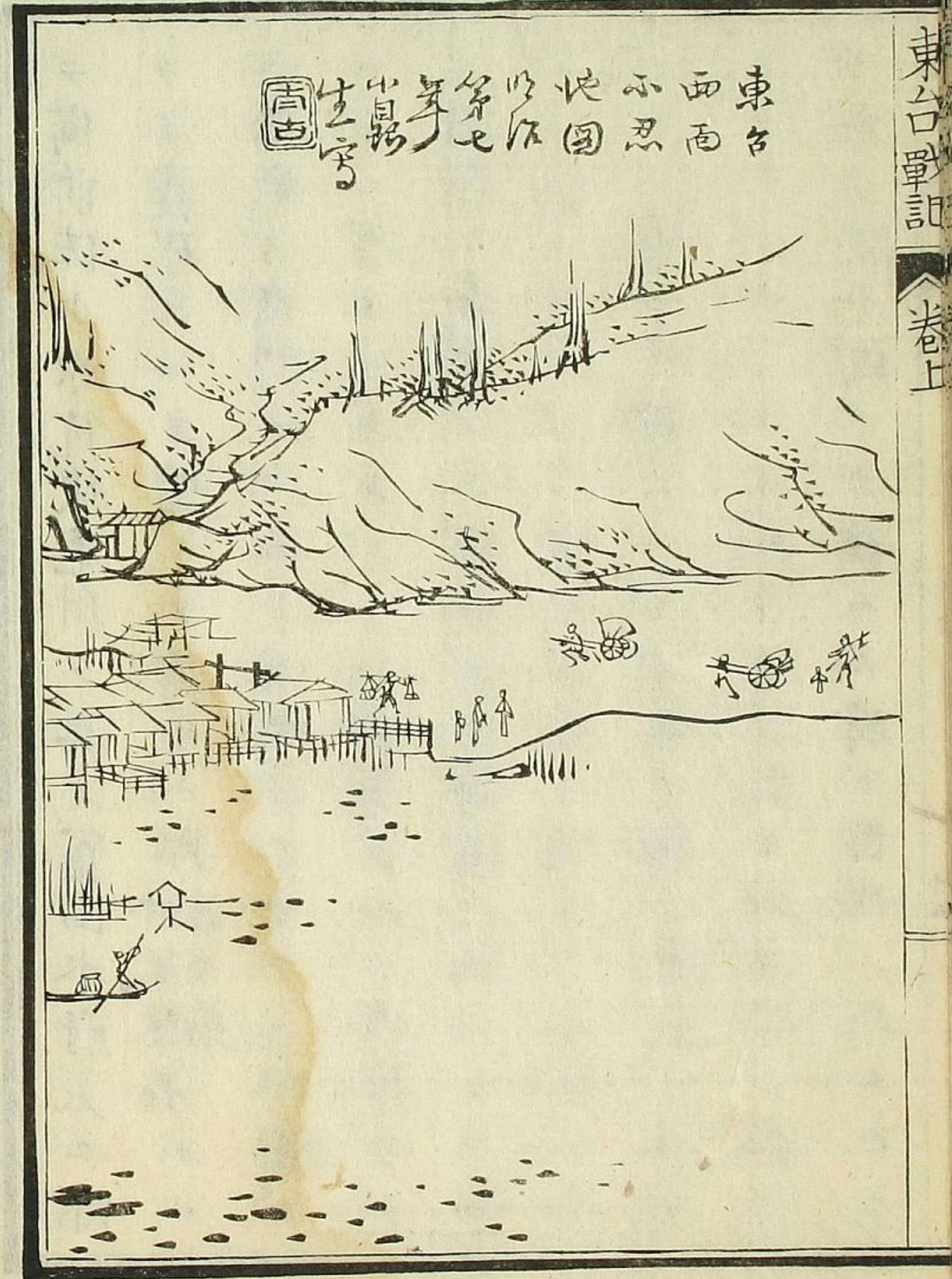
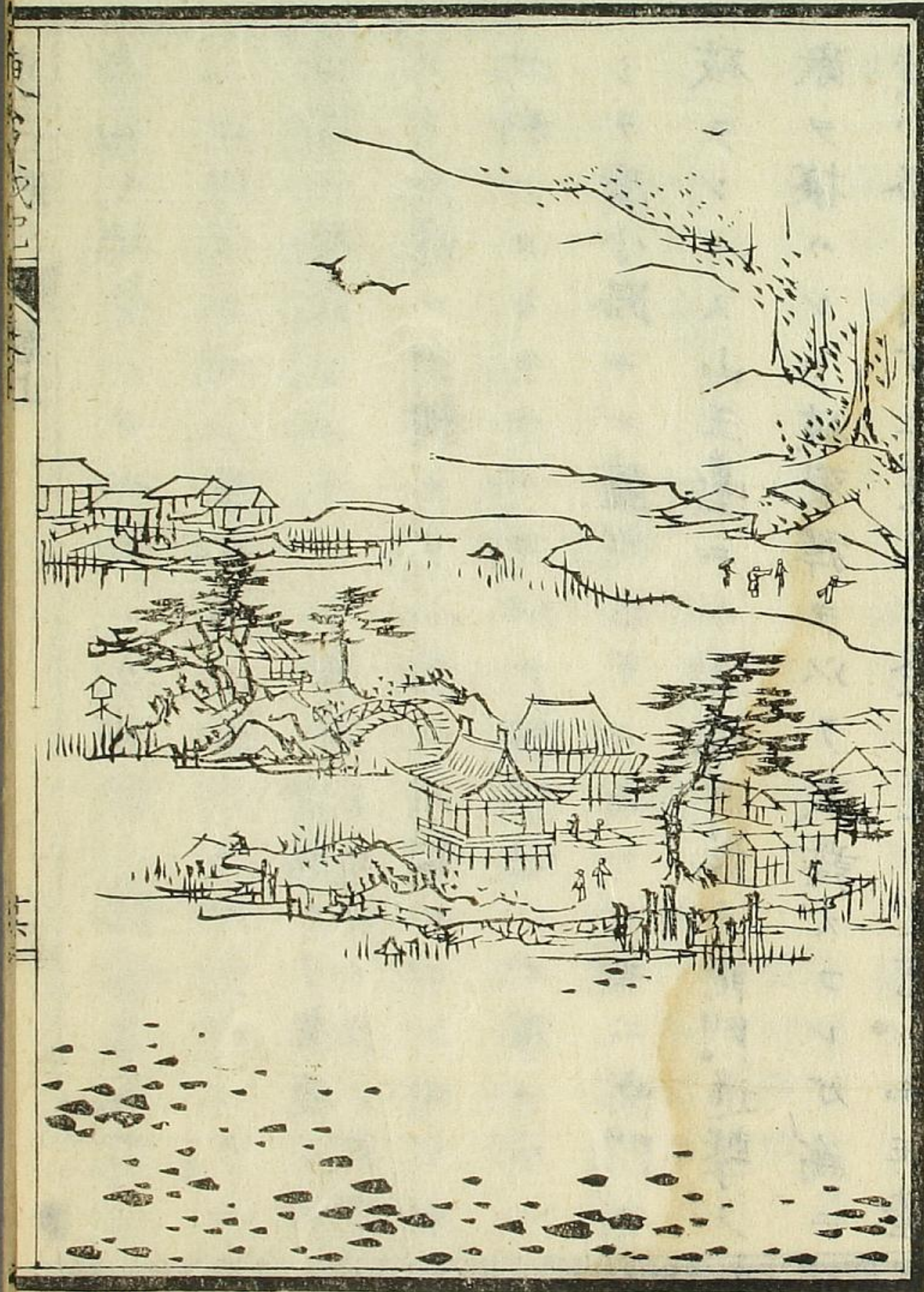
檐スルノ夫東西ニ轉伏シ衣櫃ヲ荷フノ婦南北
ニ倒履ス老人ハ失火ヲ憂テ空ク倉庫ニ注意シ
年少ハ母ヲ失テソ、口ニ巷頭ニ踟泣ス馳驅奔
走雜沓云フベカラス十五日昧爽官兵ノ諸隊分
列相進シ南黒門口ヨリ湯嵩天神臺ニ向フモノ
薩州肥後因州ノ兵トス東山下通車阪門并風坂
門坂本ヨリ進ムモノ薩州長州彦根備前因州阿
州伊州トス西本郷ヨリ富山邸前田稠松邸地西茅町ニアリ水
府邸同地ノ北ニヨルモノ肥前筑後備前伊州佐

土原尾州隊 磅礪トス自餘一橋御門ヨリ水道橋ニ
 備フルモ、阿州トス水戸邸小石川ニ備フルモ、
 尾州トス森川宿本郷駒籠追方駒込ニ備ル者
 備前トス大川橋淺草邊ニ備フル者紀州トス昌
 平阪聖堂今文部省師範學校トナル筋違邊ニ備ルモ、新發
 田伊州トス十住大橋ニ備フルモ、因州トス板
 橋驛ニ備フルモ、若州トス川口驛戸田川原ニ
 備ル者大久保與市肥後トス沼田古河忍川越ノ
 驛ニ備ル者肥前肥後藝州筑前トス此諸隊ハ山

兵ノ潰亂シテ其北ルヲ一舉ニ網羅セントスル
 結構タリ山兵ノ諸隊始三千餘人アリ事ハ不
 意ニ出ルヲ以偶歸家シテ左營セザル者當朝出
 發シ山兵ニ列セントシテ道官兵ニサ、一ラレ
 テ空ク從事セザルアリ一時糊口ノ為ニ身ヲ隊
 中ニオクノ徒ハ前夜遁逃スルモ有、シ頃日三
 千有余ノ兵今朝見兵千人ニ過ズトイ、一氏隊長
 以下義ヲ思フノ徒更ニコノ輩ニ関涉セズ諸隊
 ヲ整頓シ斥侯ヲミツカラシテ春日天野小林等

ヒトシク東名ヲ出微行シテ山下通り山ノ東方
本金杉ヨリ阪本ヲ歴東台ノ北千根岸里ニ至ル
一通ス住ニ達ス比ホヒ南方忽砲響ヲ聞驚テ馬ニ鞭ウチ天王寺
ヨリ池ノ端マテ来ルニ南門ニ戦争始リ相挑ノ
景況ナレハ直ニ山内ニ馳入諸隊ニ下知ヲツタ
フ是ヨリサキ南門ニハ薩州肥後因州ノ兵廣小
路ヨリ進撃シ大小ノ彈丸ヲ飛シテ相迫ル山兵
ハ酒井宰輔指令シ万宇隊コレニ協力應援シテ
防禦粉骨ス西穴稻荷門ニハ浩氣隊神木隊相備

テ備前佐土原筑後尾州ノ兵ノ富山水府ノ二郎
ヨリ發砲スルヲ嚮ヘテ蒲生八郎浩氣隊長コ、
ニ奮戦ス南門ハ一山ノ咽喉タリカタク守禦セ
ズンハ有ルヘカラズトハ聯隊ヲ以テ應援セシ
ム此隊ノ長木下七郎副長寺澤瀧之助トモニ擊
劔ニ長セルヲ以テ酒井宰輔ニ協力シ歩兵ニ令
シテ小銃ヲ連發セシメ進軍ヲ嚮テ屠殺スルコ
トイフハクナルヲ知ラズ官兵モ此兵勢ニ挫レ
テ敢テ進ミ近ヅク能ハズ時ニ因州ノ兵カネテ



湯島天神臺ニアルモノ天満宮ノ別當喜見院ニ
 山兵埋伏スルト告ルモノ有ルニヨリタ、チニ
 寺院ヲ放火シス、ンテ仲街湯島ヨリ東廣小路
 ヨリ池邊ニ出横ヨリ山内ヲ攻撃セントスレト
 地利ノヨカラサルヲ以テ猶豫進マズ軍ヲカハ
 シテ廣小路ナル薩州已下ノ兵ト、モニ南門ヲ
 破ラントス山王臺ニハ巨礮ヲ置テ南門進撃ノ
 敵ヲ攘ハント破裂彈ヲ以テ激發スコレガ為ニ
 廣小路ノ南方ニ處火ヲ發シ連々延焼ス山王臺ノ

東面高聳ノ地山下官兵ノ山下ヨリ迫ルモノ數
 隊ノ中伊州ノ一隊間道ヨリ進テ下谷町竹町等
 地ヨリ山竊ニ山下ノ割烹家伊勢万ト云ヒ岡村
 下ニ進ハ竊ニ山下ノ割烹家伊勢万ト云ヒ岡村
 樓有官兵コ、ニ埋伏ス樓上ニ屯集シ其垂簾
 ト伊ヒ万俗ノ鍋ト稱ス
 ノ中ヨリ小銃ヲ連發シテ山王臺ノ兵ヲ狙撃ス
 山上コレガタメニ殪ル、モノ多シ後ニ聞伊州
 ノ隊中鷹取春朔ナルモノ、計策ナリト山兵ハ
 山下ノ官兵埋伏ヲ認得ストイ、氏大方コノ割
 烹家ノ邊ニアルヲ察シ山下ヲ放火シテ其馮據

ヲ奪ハント破裂彈ヲ數發ス山下ツヒニ延焼シ
 テ又數坊ニ及フ本日モ猶微雨至リ烟雲閉天不
 辨咫尺號呼山ヲ動シ砲響石ヲ飛ス山北谷中門
 ハ本隊天王寺ヲ屯戍ノ地トシ小川楊太高橋龜
 吉花侯鉄吉ヲ隊長トシテ属スルニ歩兵隊百字
 隊旭隊松石隊アリ官兵ハ本郷ヨリ向フ所ノ長
 州已下ノ數隊也山北根津權現ノ社中ニアル所
 ハ山兵ノ分隊ヲ擊却ケテ其勢破竹ノ如ク直ニ
 團子阪千駄木ニアリ谷中ヨリ天王寺ニ進撃シ
駒籠トニ相接ス

山北ヲ捲テ一舉ニ攻メ降サントス山兵ハ天王
 寺ヲ發シ歩兵隊ヲ先鋒トシ彰義隊ノ壯士競テ
 奮戦ス地勢高低一ナラス挾隘ノ坂満水ノ道進
 退意ノマ、ナラズシテ地利ニクラキノ官兵擊
 ル、モノ數ヲシラス肥前ノ隊ハ兵半ヲ分割シ
 南門ニ向ハシノ小銃隊ヲ牽テ大村佐土原ノ兵
 ト共ニ長兵ヲ救テ相挑ム兵威奮然必死ヲ究ム
 ト雖モヤ、モスレバ山兵ニ切り靡ケラレテ足
 ヲ止ムルヲ能ハス遂ニ敗シテ惣軍潰亂ス山兵

ハ諸隊ニ指令シ北ルヲ追テ根津藪下マテ團子
根津権現トノ間ヲ云ソノ地利ヤ西阪ト迫ル時官兵
面高ク東面崖ヲナシ樹木繁茂セリ連護ス彈
ノ伏茂林竹藁ノ間ニ起テ其横面ヨリ連護ス彈
丸ノ雨防クニタヘス鯨波雷ノ如ク兵列ヲ整ル
ニ暇マアラスシテ山兵一時ニ敗軍シ一隊長コ
、ニ討死セシニヨリ諸隊潰亂死傷算スヘカラ
ス元來官兵ノコ、ニ伏ヲ設シヤ進撃ノ隊ヲシ
テイツハリ敗シテ死地ニ欺キ入レコレ全勝ヲ
取トモ云ヒ肥前ノ兵半隊ヲ分チ南門ニ向ハシ

ムルノ時密策ヲ以テコ、ニ伏ヲ置リトモ云今
其確説ヲ得ストイハ氏前ニハ山兵利ヲコ、ニ
得官兵替テ又山兵ヲ破ル得失地ヲ同ノシテ兩
軍運ヲ異ニスルハ抑歎スベシトセンカ欣ズベ
シトセンカ此進退數次ノ炮火ニ罹テ近坊多ク
燒亡ス天王寺モコノ兵燹ニ属セリ今夕、五重
ノ塔ノ之茂樹ノ中ニ有テ存在セリ同時水富ニ
邸ニ屯スル所ノ尾筑以下ノ兵ハ池ヲ隔テ山ノ
横面ヨリ白砲ヲ發シ兵士ハ小舟ニ乘シテ辨財

天堂ノ中爲ニ渡リ直ニ穴稻荷門ヲ攻撃ス一ニ
仲町ヨリ廣小路ヲ歴テコ、ニ進ムトモ云イツ
レカ是ナラン穴稻荷ハ吉祥閣南數步ニシテ祠
背掘穴アルニヨツテ名ツク此門ヲ防禦スルハ
神木隊神原藩浩氣隊若州藩ニシテ蒲生三郎近田六
郎太夫カヲ合セテ挑ミ戰ヒ池西ノ敵ヲ數百步
ノ外ニ拒撃シ船ニ乗シテ進ムノ隊ト相戦フ
數十合時神木隊中中村徳三郎ナハモノアリ年
終ニ十七勇奮激烈堅キヲ挫テ敵數人ヲ斫殺シ

首級ニツノ髪ヲ束ネテ背ニカケ猶進軍ヲ攘ハ
ントス此時連發ノ彈丸全身五ヶ所ニ透徹シ斃
ルレトモ屈セス退テ山内ニ入り閣下ニ至テ全
ク死蒲生三郎モ亦コノ亂彈ニウタレテ死スト
云此二士ノ勇肝タレカ惜マザルベケンヤ蓋シ
吉祥閣ノ兵燹ニカ、レルモコノ水富二郎ヨリ
發スル所ノ彈丸ニヨルト嗚呼此日イカナル日
ソヤ慈眼大師開基ヨリ實ニ二百四十一年ナリ

